

茅葺屋根を次世代に繋ぐ

寒川のシンボルとして知られ、国の登録有形文化財にも指定されている茅葺屋根の「寒川邸」。
33年ぶりに行われた葺き替え工事に密着し、家主の寒川歳子さんにお話を聞きました。



葺き替え前（北面、西面）

葺き替え後（北面、西面）

寒川ってどんなところ？

町民の方でも、寒川に行ったことがない方もいらっしゃるのでは？
役場本庁から車で約1時間。
日高川を遡った先に見えてくるのは「清流の里 寒川」の看板。
脇道に入り、トンネルを抜けると人口約300人の寒川地区に到着。
例年冬には、雪が見られるほど、町内でも格段に寒い地域となっている。

上空からの寒川邸周辺

33年ぶりの葺き替えのことですが、
令和2年9月～12月にかけて、北、東、西の3面を葺き替えました。
葺き替えの方法には、全面的に葺き替える「丸葺き」と、傷んだ部分を補修する「差し茅」という方法があります。北、東、西は日当たりが悪く、湿度が多くて傷みが進んでいたため、全面的に丸葺きを行いました。日当たりの良い南面は差し茅で補修を行いました。

葺き替え費用が高額と聞きました。

全体で約2,000万円が必要でした。半分は国からの補助金を充てられましたが、残りの半分は、自己負担です。そこで、定期的に交流があった中学校からの幼馴染や大学時代からの友人たちにより「kayabuki寒川」という有志グループを立ち上げていただき、HPの作成



ススキ(左)とヨシ(右)

やFacebookでの情報発信、さらには葺き替え費用に係る募金活動を行っていたきました。

茅はどちらのものを使っていたのですか？

ススキは生石高原、ヨシは青森県のものを使いました。ちなみに、茅というのは、屋根材などに使われる植物（ススキ、ヨシなど）の総称なのです。東西面にはススキを使い、最も湿度の多くなる北面には、水辺の植物であるヨシを使用しました。並べてみると、ヨシのほうが一本一本がしっかりとしていて、ことがわかります。



屋根裏で御博参加者に茅葺屋根を紹介する様子

御博（御坊日高博覧会）に参加されたと聞きましたが、感触はいかがでしたか？

9月下旬に、御博のプログラムとして、葺き替え工事の様子を皆様に見ていただきました。保育園児から60代の方まで、4日間合計50名ほどの参加があり、屋根裏や足場の上で、ご案内をさせていただきました。予想よりもたくさんの方に来ていただき、楽しんでいただいたので、今後はさらに、見学会などの受入れを検討していこうと思います。

工事を終えての感想

工事が終わり、柔らかなカーブを魅せて、黄金色に輝く屋根を見ると、ありがたさに胸がいっぱいになります。ご支援いただきました多くの方々や地域の方々、そして、4ヶ月にも及ぶ工事を完了して下さった屋根師さん。本当に、ありがとうございました。葺き替え前は、屋根の傷みが進んでおり、雨漏りなどに悩まされていましたが、今では安心して家に帰ることができ、ほっとしています。今後は、よりよい活用を目指して、皆様に喜んでいただける方法を模索し、茅葺屋根を次世代に繋げていきたいと思っています。



工事中の様子（北面）

寒川邸とは

寒川神社近くにある寒川邸は、鎌倉時代から代々続く地頭・寒川家の家屋。現在は、寒川神社宮司の寒川歳子さんが暮らす母屋と離れ、土蔵など7件の建物がある。母屋は江戸時代末期の嘉永3年(1850年)に改築された。茅葺を維持する屋根や風格ある表門、白壁の土蔵などが周囲の景観と調和していることが高く評価され、平成25年には国の文化審議会に町初の登録有形文化財に選ばれた。

昭和63年に山口智子さん主演で放映されたNHK朝ドラ「純ちゃんの応援歌」の舞台になったことでも知られる。



雪化粧の寒川邸